

カナダにおける高病原性鳥インフルエンザの防疫対応
 (殺処分方法及び死体等の処理方法)について(概要)

1 殺処分方法

1) 方法 CO₂ガスによる殺処分

2) 手順

(1) 鶏舎の密閉化：鶏舎の換気口、出入口、壁の隙間等をビニールシート、シーリング剤等を用いて、鶏舎の密閉化を行うとともに、ガス注入のための配管を設置

(2) 液状CO₂ガスの注入：トレーラーから鶏舎に液状CO₂ガスを注入

(3) 密閉の解除：注入作業終了12～24時間後に鶏舎の密閉を解除

3) 担当人員

(1) 指導班(3名)：鶏舎の構造、鶏群の感染状況等を勘察し、殺処分計画を作成

(2) 作業班(8名)：担当獣医官1名(農場での現場監督)
 密閉作業員6名(民間委託)
 CO₂ガス取扱専門家1名(民間委託)

2 処理方法

1) 概要

感染農場42ヶ所の125万羽は、46%をコンポスト化(堆肥化)、40%を焼却及び14%を埋却で処理した。また、自主とう汰した陰性鶏群100万羽は、全てコンポスト化(堆肥化)した。

2) コンポスト化(堆肥化)

(1) 概要：鶏の死体と鶏糞をオガクズと混ぜ、ウイルスの不活化を目的に、鶏舎内で堆肥化を行う「ステージ1」及びステージ1を終了した堆肥を屋外に移し、堆肥化を完成させる「ステージ2」の2段階からなる。

(2) 手順

ステージ1(鶏舎内)

- ・ 鶏舎の床にオガクズを敷き、死体とオガクズを交互に積み重ねる
- ・ 堆肥全体の温度上昇後、温度が低下したら、ステージ2に移行する

ステージ2(屋外)

- ・ ステージ1を終了した堆肥を死体とオガクズを交互に積み重ねる
- ・ 約50℃の温度を維持し、約8週間で堆肥化が完了する

3) 焼却処理 (エアカーテン焼却法)

(1) 概要：感染地域から車で2時間程離れた旧鉱山にある焼却場所に鶏の死体を運搬し、焼却。本焼却法は、北米では廃木の一般的な処理法で、家畜の処理にも取り入れられおり、エアカーテン(空気流)により煙のまん延を防ぎ、クリーンで高温な燃焼が可能。

(2) 手順

鶏の死体の運搬

鶏の死体を飼料用ビニール袋(1t用)と食肉専用の段ボールで二重に梱包し、冷凍コンテナで運搬。運搬は、危険廃棄物輸送業者が実施。

エアカーテン焼却法

12m×3.0m×3.6mの穴を掘削し、エアカーテン送風機を設置して、燃料の廃材と死体を段ボールに入れたまま焼却。

4) 埋却

HPAIが発生した地域は、埋却に適した土地がなかったことから、20km程離れた隣町で埋却を実施。埋却場所は、山の斜面にあり、粘土層を50m以上掘削し、ビニールシートを敷いて埋却。運搬は、危険廃棄物輸送業者が実施。